

## 第6次竹原市総合計画後期基本計画策定に向けたアンケート調査 結果概要

R5.4.18 企画政策課

### 1. 調査概要

#### (1) 調査の目的

第6次竹原市総合計画後期基本計画策定にあたっての基礎資料を得るため、市民の意向などを把握するため。

#### (2) 調査対象

18歳以上の竹原市民2,500人（無作為抽出）

※集計結果は抽出率を基にウエイトバック集計（注）を実施した。

（注）回収されたサンプルを母集団の構成に合わせて集計する方法

#### (3) 調査期間

令和5年1月5日から令和5年1月31日まで

#### (4) アンケート回収状況

回収数：818件（有効回収数：811件） 回収率：32.72%（有効回収率：32.44%）

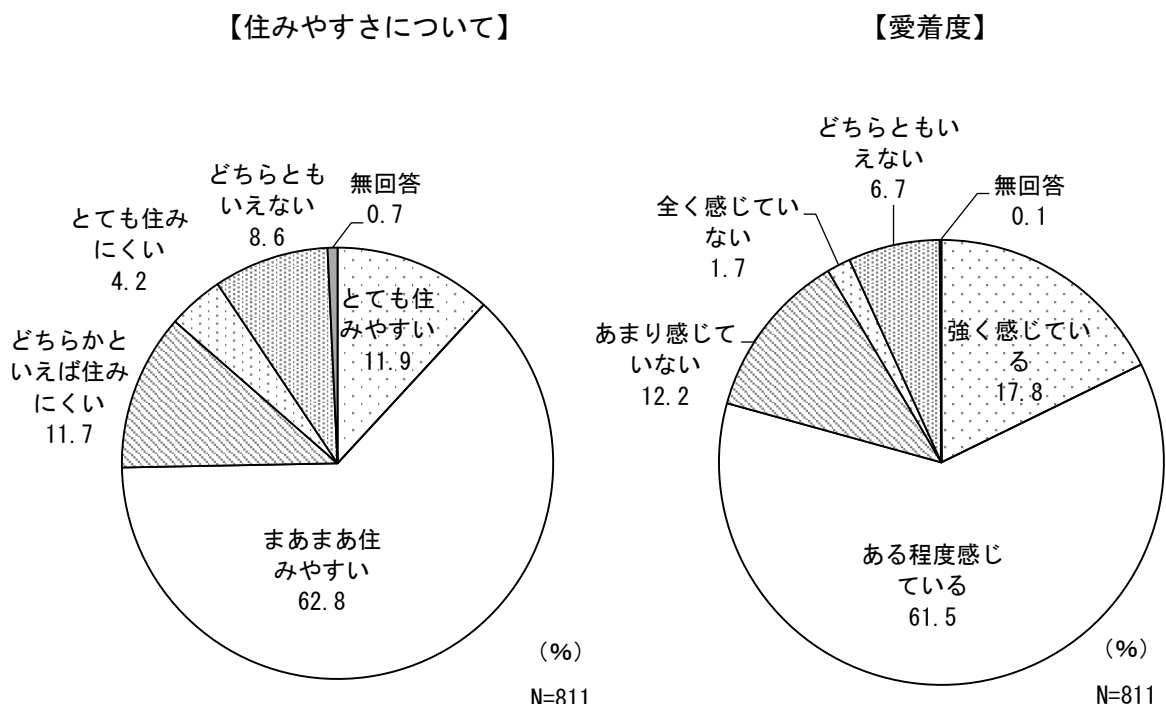
### 2. 結果概要

#### (1) 竹原市での暮らしの評価について

竹原市の住みやすさについて、「まあまあ住みやすい」が62.8%と最も多く、「とても住みやすい」(11.9%)を合わせると7割以上の人が『住みやすい』と評価している。

竹原市について愛着を感じているかについて、「ある程度感じている」が61.5%と最も多く、「強く感じている」(17.8%)を合わせると約8割の人が『愛着を感じる』と評価している。

図1 竹原市での暮らしの評価

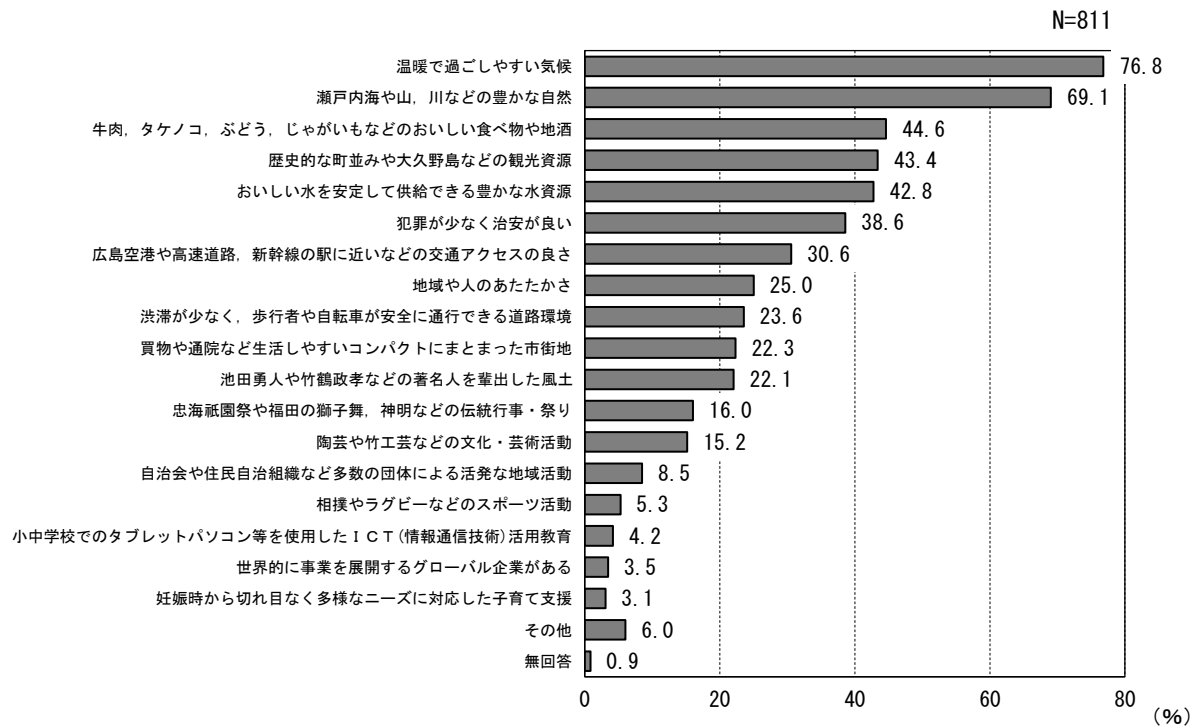


## (2) 竹原市の強み

竹原市の強み（良いところ）について、「温暖で過ごしやすい気候」（76.8%）、「瀬戸内海や山、川などの豊かな自然」（69.1%）が顕著に高くなっている。

次いで、「牛肉、タケノコ、ぶどう、じゃがいもなどのおいしい食べ物や地酒」（44.6%）、「歴史的な町並みや大久野島などの観光資源」（43.4%）、「おいしい水を安定して供給できる豊かな水資源」（42.8%）、「犯罪が少なく治安が良い」（38.6%）などとなっている。

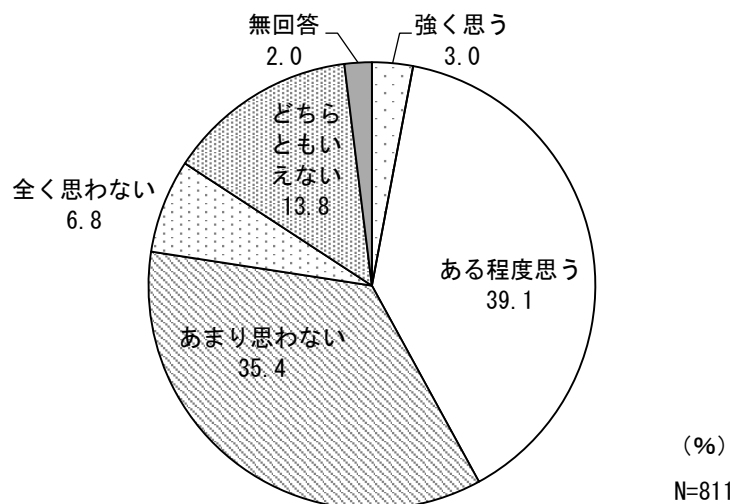
図2 竹原市の強み



## (3) 他地域から移り住む人にとって、竹原市は魅力があるか

竹原市は他地域から移り住む人にとって、魅力あるまちであるかについて、「ある程度思う」が39.1%と最も多く、次いで「あまり思わない」（35.4%）となっている。

図3 他地域から移り住む人にとって魅力あるまち

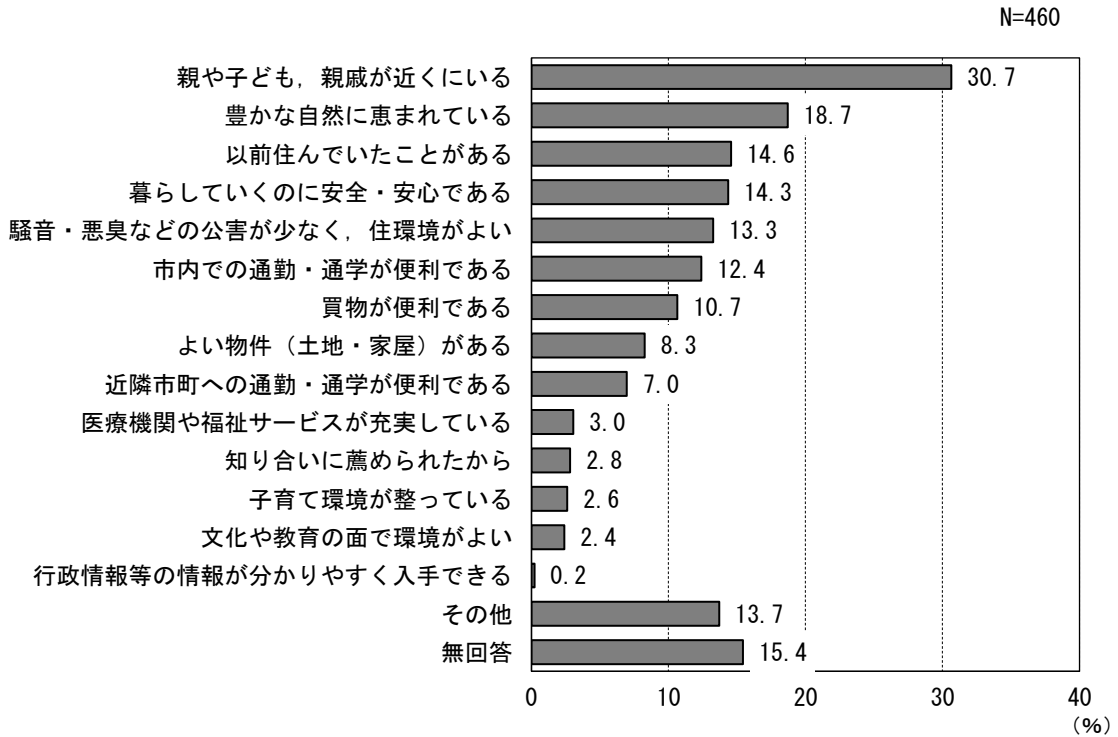




(5) 移住経験のある人が竹原市に住む際に重視したこと

移住経験のある人が竹原市に住む際に重視したことについて、「親や子ども、親戚が近くにいる」が30.7%と最も高く、次いで「豊かな自然に恵まれている」(18.7%) などとなっている。

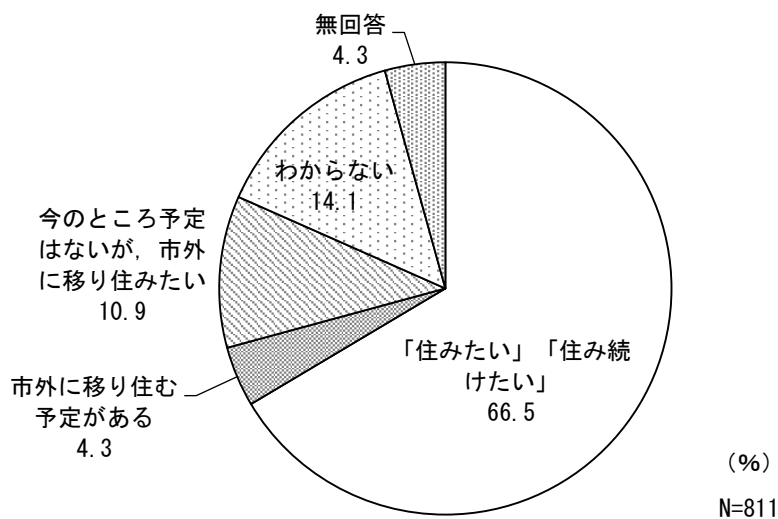
図5 移住経験のある人が竹原市に住む際に重視したこと



(6) 今後の居留意向

今後も竹原市に住み続けたいかについて、「住みたい」「住み続けたい」が66.5%と過半数を占めている。

図6 今後の居留意向

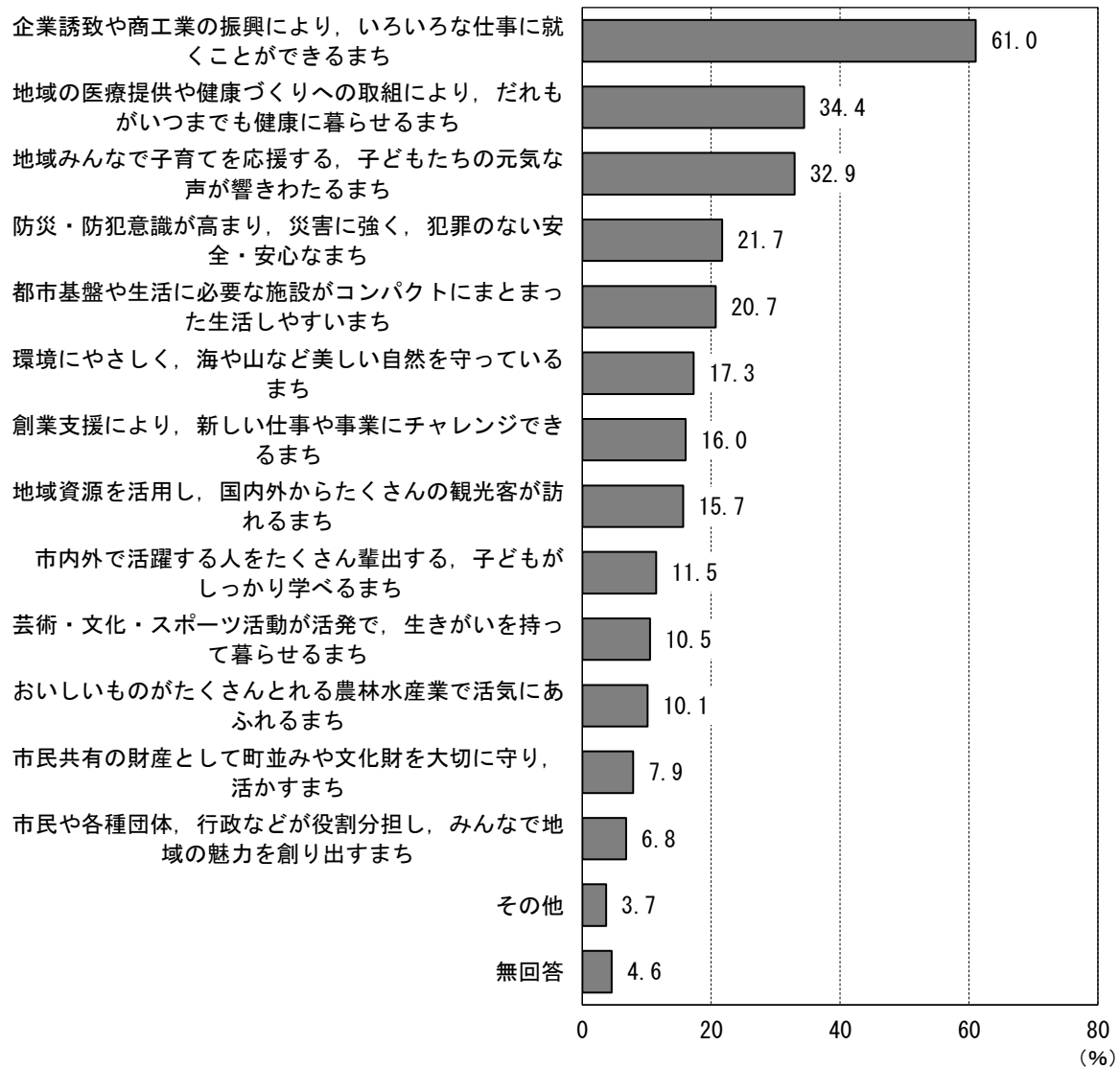


(7) “魅力あるまち” となるために必要なこと

市外の方が竹原市で住みたいと思えるような“魅力あるまち”となるために必要なことについて、「企業誘致や商工業の振興により、いろいろな仕事に就くことができるまち」が61.0%と最も高く、次いで「地域の医療提供や健康づくりへの取組により、だれもがいつまでも健康に暮らせるまち」(34.4%)、「地域みんなで子育てを応援する、子どもたちの元気な声が響きわたるまち」(32.9%) などとなっている。

図7 “魅力あるまち” となるために必要なこと

N=811

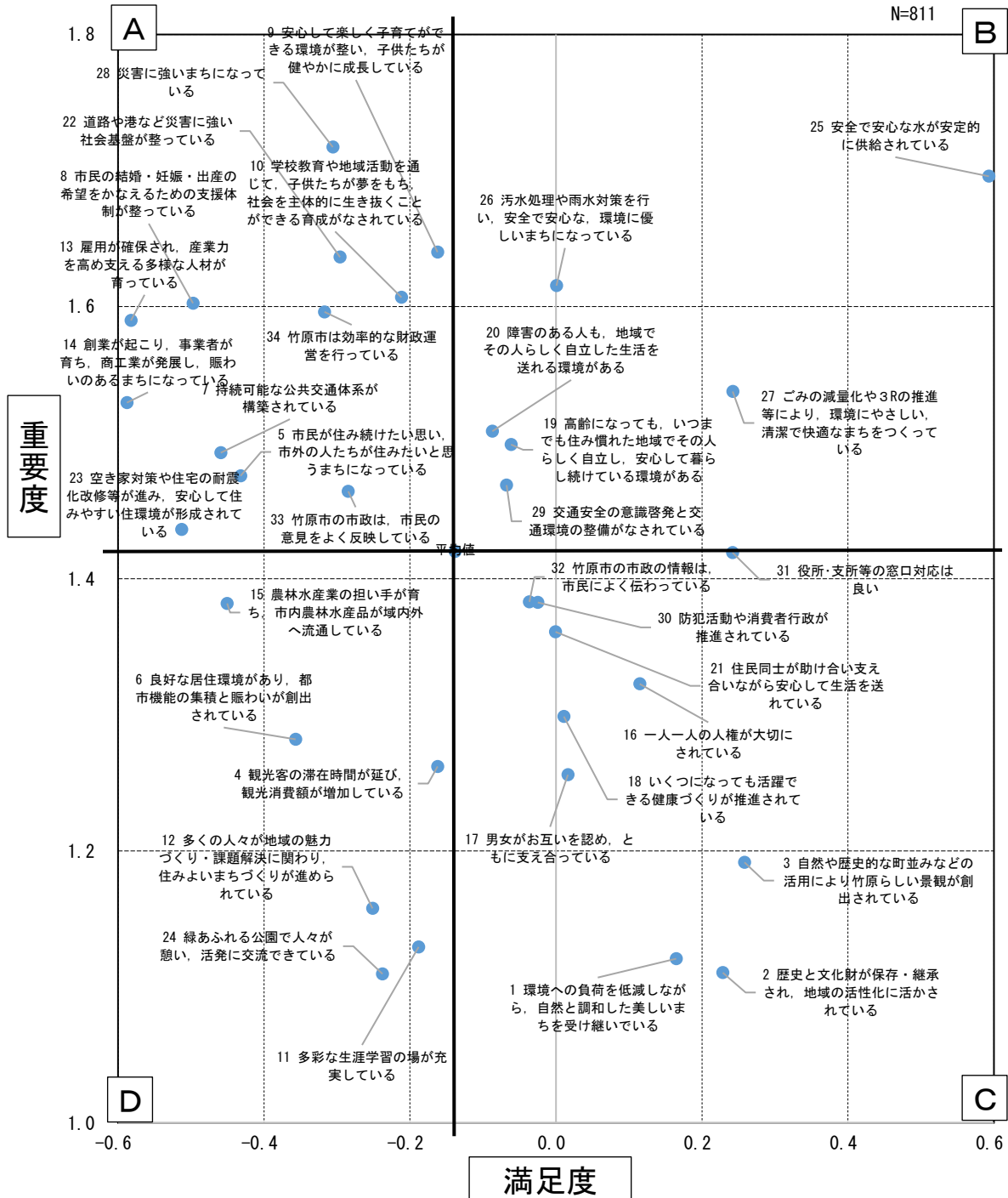


(8) 竹原市で取り組んでいる分野別の満足度・重要度について

竹原市で取り組んでいる暮らしに関する34分野について、重要度と満足度の回答結果を得点化し、横軸を満足度、縦軸を重要度とする相関図を作成し、満足度・重要度の全分野平均値で区切られた4領域により、各分野の竹原市における位置づけを確認した。

各分野の位置づけは、A領域（重点化・見直し領域）12分野、B領域（現状維持領域）6分野、C領域（現状維持・見直し領域）10分野、D領域（改善・見直し領域）6分野となった。

図8 満足度・重要度の相関図



(注) 図中の太線は重要度・満足度の全分野平均値（満足度：-0.138 重要度：1.420）を示す。

A領域では、「28 災害に強いまちになっている」の重要度が全分野で最も高いものの、満足度はやや低いことが見受けられる。

B領域では、「25 安全で安心な水が安定的に供給されている」の重要度・満足度の高さが際立っている。

C領域では、「31 役所・支所等の窓口対応は良い」の重要度はそれほど高くないものの、満足度は高いことが見受けられる。

D領域では、「24 緑あふれる公園で人々が憩い、活発に交流できている」の重要度が全分野で最も低く、満足度も低いことが見受けられる。

表1 各分野の領域の位置づけ

A領域（重点化・見直し領域）	B領域（現状維持領域）
<ul style="list-style-type: none"> <li>5 市民が住み続けたい思い、市外の人たちが住みたいと思うまちになっている</li> <li>7 持続可能な公共交通体系が構築されている</li> <li>8 市民の結婚・妊娠・出産の希望をかなえるための支援体制が整っている</li> <li>9 安心して楽しく子育てができる環境が整い、子供たちが健やかに成長している</li> <li>10 学校教育や地域活動を通じて、子供たちが夢をもち、社会を主体的に生き抜くことができる育成がなされている 2-3 商工業の振興</li> <li>13 雇用が確保され、産業力を高め支える多様な人材が育っている</li> <li>14 創業が起り、事業者が育ち、商工業が発展し、賑わいのあるまちになっている</li> <li>22 道路や港など災害に強い社会基盤が整っている</li> <li>23 空き家対策や住宅の耐震化改修等が進み、安心して住みやすい住環境が形成されている</li> <li>28 災害に強いまちになっている</li> <li>34 竹原市は効率的な財政運営を行っている</li> <li>33 竹原市の市政は、市民の意見をよく反映している</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>12分野</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>19 高齢になっても、いつまでも住み慣れた地域でその人らしく自立し、安心して暮らし続けている環境がある</li> <li>20 障害のある人も、地域でその人らしく自立した生活を送れる環境がある</li> <li>25 安全で安心な水が安定的に供給されている</li> <li>26 汚水処理や雨水対策を行い、安全で安心な、環境に優しいまちになっている</li> <li>27 ごみの減量化や3Rの推進等により、環境にやさしい、清潔で快適なまちをつくっている</li> <li>29 交通安全の意識啓発と交通環境の整備がなされている</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>6分野</b></p>
D領域（改善・見直し領域）	C領域（現状維持・見直し領域）
<ul style="list-style-type: none"> <li>4 観光客の滞在時間が延び、観光消費額が増加している</li> <li>6 良好な居住環境があり、都市機能の集積と賑わいが創出されている</li> <li>11 多彩な生涯学習の場が充実している</li> <li>12 多くの人々が地域の魅力づくり・課題解決に関わり、住みよいまちづくりが進められている</li> <li>15 農林水産業の担い手が育ち、市内農林水産品が域内外へ流通している</li> <li>24 緑あふれる公園で人々が憩い、活発に交流できている</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>6分野</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 環境への負荷を低減しながら、自然と調和した美しいまちを受け継いでいる</li> <li>2 歴史と文化財が保存・継承され、地域の活性化に活かされている</li> <li>3 自然や歴史的な町並みなどの活用により竹原らしい景観が創出されている</li> <li>16 一人一人の人権が大切にされている</li> <li>17 男女がお互いを認め、ともに支え合っている</li> <li>18 いくつになっても活躍できる健康づくりが推進されている</li> <li>21 住民同士が助け合い支え合いながら安心して生活を送れている</li> <li>30 防犯活動や消費者行政が推進されている</li> <li>31 役所・支所等の窓口対応は良い</li> <li>32 竹原市の市政の情報は、市民によく伝わっている</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>10分野</b></p>

(9) 概ね5年前との比較

竹原市で取り組んでいる暮らしに関する 34 分野について、概ね5年前と比較して良くなったか、悪くなったかをみると、「27 ごみの減量化や3Rの推進等により、環境にやさしい、清潔で快適なまちをつくっている」で『良くなった』（「良くなった」と「やや良くなった」の合計）の割合が42.0%と最も高く、次いで「3 自然や歴史的な町並みなどの活用により竹原らしい景観が創出されている」（34.9%）で『良くなった』の割合が30%を超えている。

また、『悪くなった』（「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計）の割合は、「14 創業が起こり、事業者が育ち、商工業が発展し、賑わいのあるまちになっている」が28.0%と最も高く、次いで「8 市民の結婚・妊娠・出産の希望をかなえるための支援体制が整っている」（26.5%）、「13 雇用が確保され、産業力を高め支える多様な人材が育っている」（25.8%）、「7 持続可能な公共交通体系が構築されている」（25.3%）で25%を超えている。

図9 概ね5年前との比較

N=811

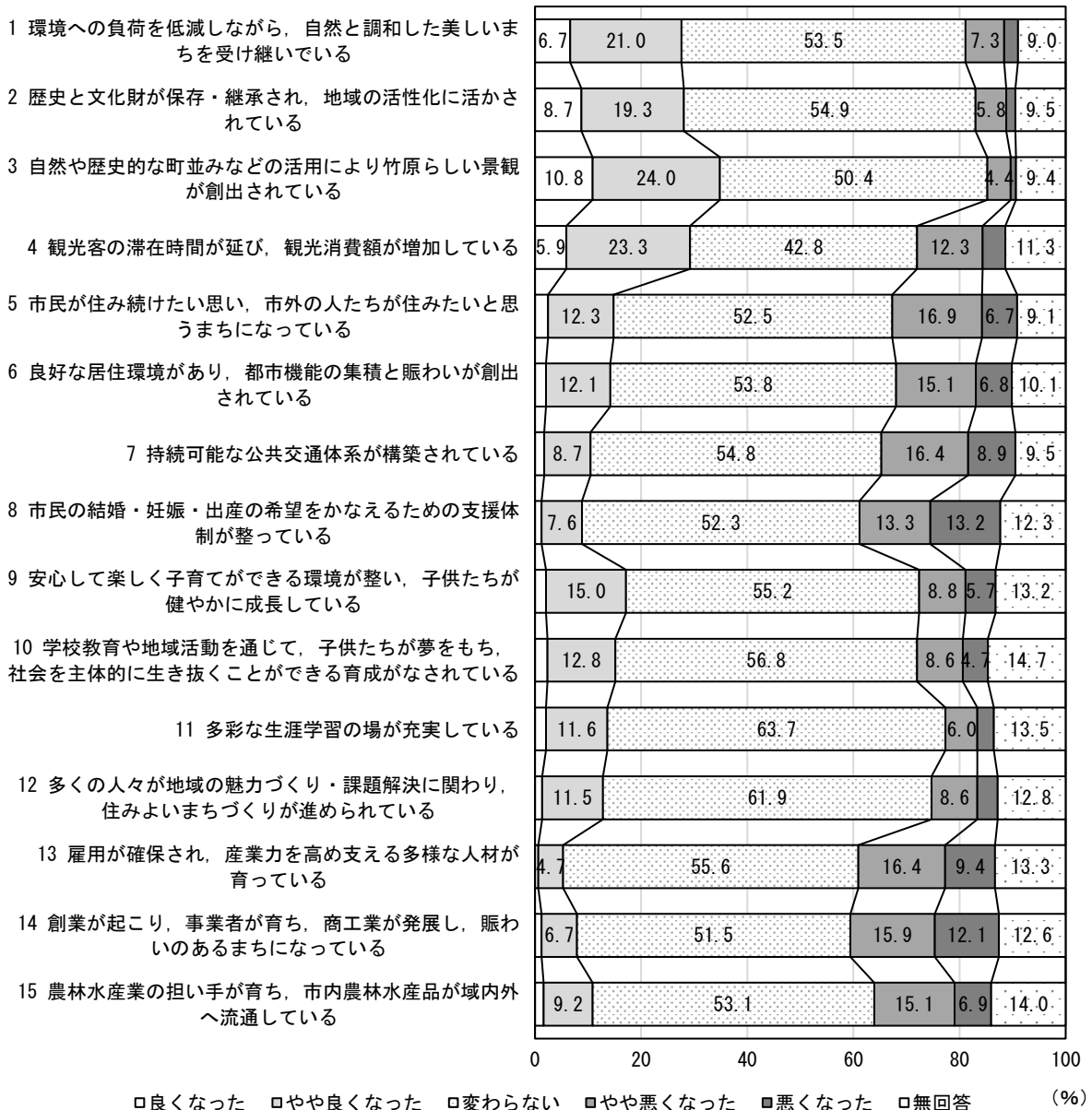
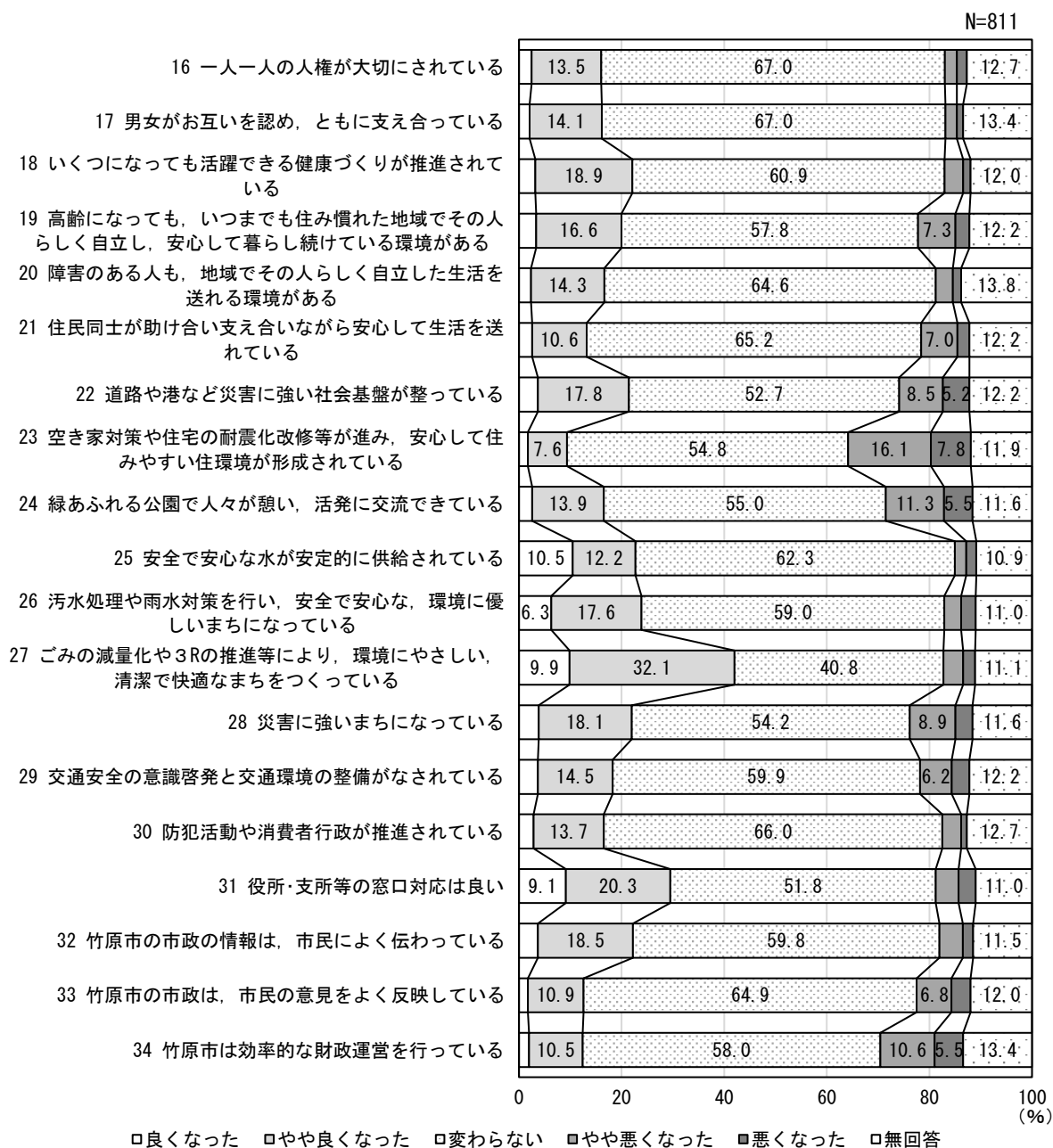




図9 概ね5年前との比較（続き）



(10) 平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興で、より重点的に進めるべき取組

平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興で、より重点的に進めるべき取組について、「避難所の見直し・機能強化」(32.8%)が最も多く、次いで「水道施設等の復旧」(22.1%)、「公共土木施設の復旧」(21.6%)などとなっている。

図10 平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興で、より重点的に進めるべき取組

